

満潮時



干潮時

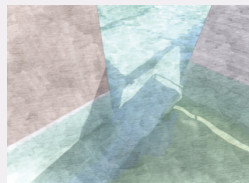


潮待ちの港の”暮らしの振る舞い”

00. theme

「外」を人・まち・環境として捉え、
「潮の満ち引き」によって住まいと繋げる。

住まいは、外壁により周囲と分断される。内部はドアにより、さらに細分化される。住まいは外壁とドアにより明確な境界がつけられ、その関係性は断たれる。**潮の満ち引きを住まいに引き込むことで、生活の場を変化させる。**水の振る舞いにより、生活の場を漂うように変化させることで、人々の繋がりを創り出す。そして、人だけでなく、まちの風景や環境にも変化をもたらす住まいの提案をする。



01. site

広島県福山市 鞆の浦

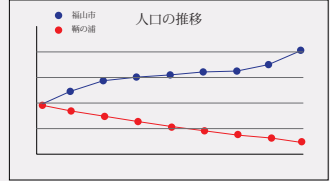


鞆の浦は瀬戸内海の中央に位置し、古くから内海を航行する船の潮待ち、風待ちの港として栄え、数多くの文化財や歴史的建築物を有する港町。
鞆の浦を境にして潮の流れが逆転するため、沿岸航海が主流の時代に瀬戸内海を横断するには鞆の浦で潮流が変わるのを待たなければならなかった。このような地理的条件から潮待ちの港として知られていた。

02.problem

人・まち・環境の繋がりの希薄化

01. 人口減少によるコミュニティの希薄化



鞆の浦の人口は1960年代から減少の一途を辿っている。人口構成は65歳以上の人口は増加しているが、65歳未満の人口は減少している。若者世代の町外への流出や少子化に起因する。人口の減少に伴い、コミュニティは減少し、人々の繋がりは希薄化している。漁業に携わる人口も減少し、港町としての営みや景観も失われる恐れがある。

02. 漁業関連施設の未整備による景観の悪化



鞆の浦の港は江戸期からの歴史的な施設が残り、歴史的な町並みと一体となり、美しい景観を構築している。その一方で漁業関連施設の未整備により、沖合に係留せざるを得ない漁船や、港内の至る所に漁具が放置されている。これらの現状は漁業に携わる人口を減少させるだけでなく、港町の美しい景観を阻害している。

03. 木造建物の老朽化に伴う防災の脆弱化



鞆の浦には老朽化した木造建築物が密集しており、火災の災害時には多くの家屋が延焼する危険性が高く、災害に弱い町の構造となっている。災害時には自主活動で現状は対応しているが、人口の減少に伴い、防災活動にも支障をきたす恐れがある。火災時の避難施設になりうる施設も少なく、火災により大きな被害がでる可能性がある。

04. 下水道の未整備による水質の悪化



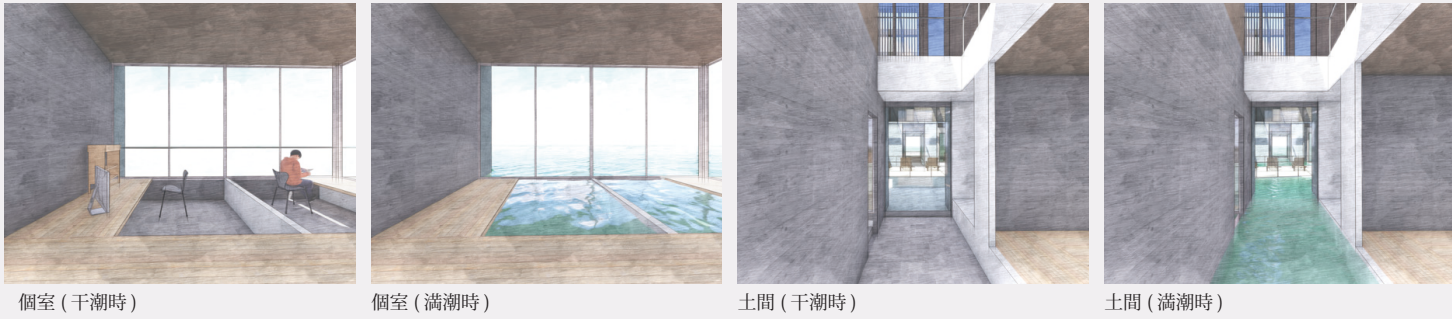
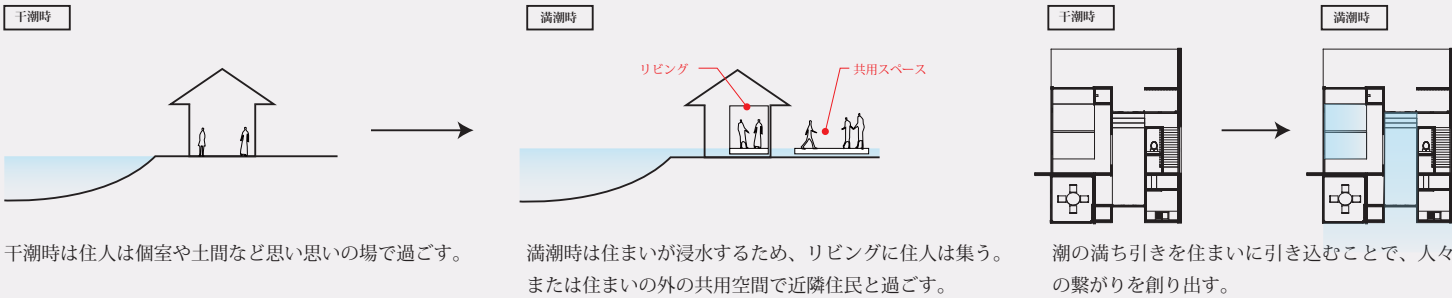
鞆の浦は下水道が未整備であるとともに、宅地等が狭小で合併浄化槽を設置できる土地がないため整備率が低く、トイレの水洗化が進まない状況にあり、雑排水のほとんどは、未処理のまま直接海に排水されている。住民の生活の快適性だけでなく、海の水質悪化など、衛生、環境面において大きな課題となっている。

02.concept

潮の満ち引きを住まいの中につなげ、人と人との新しい関係を創り出す。

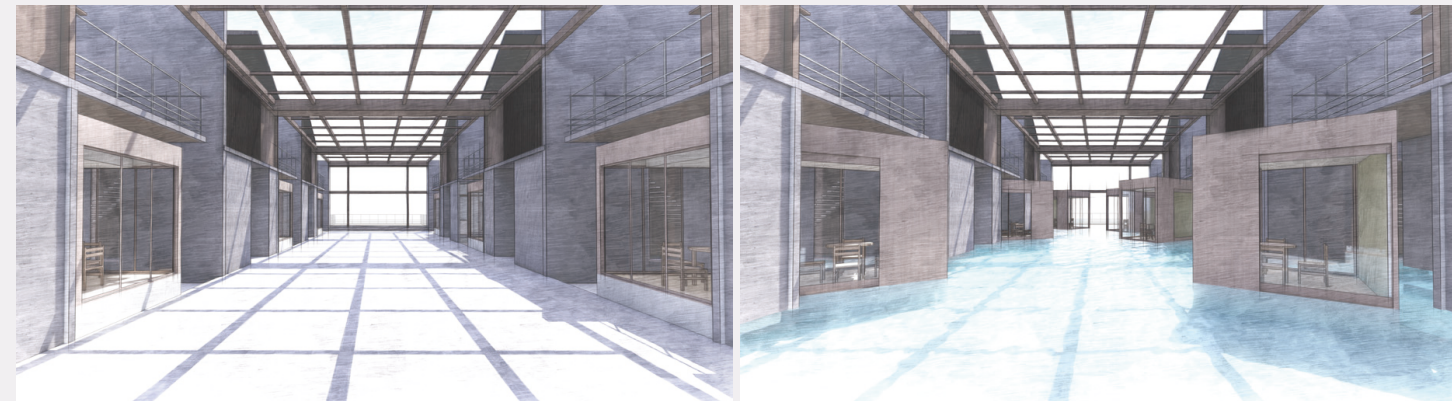
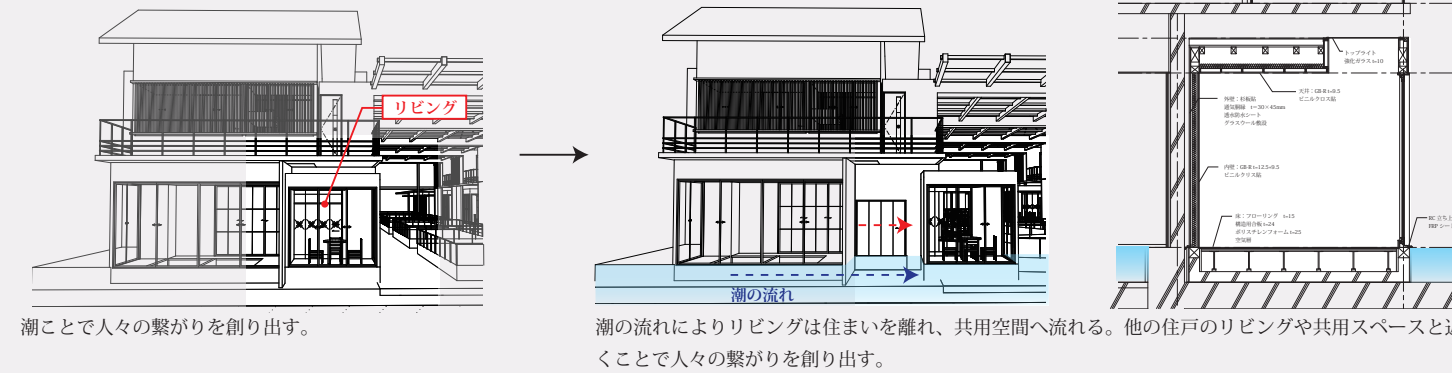
01. 外壁下部から潮の満ち引きを住まいの中に引き込む

干潮時は住人は住まいの中で過ごす。満潮時は住まいの中に水が入り込む。水の浸水のないリビングへ移動する。または、住まいの外にある共用スペースで他の住人たちと過ごす。潮の満ち引きにより、住人は生活の場を変える。**水の振る舞いの上で暮らすことで人々は、自然と緩やかな関係性をもつ。**



02. 住まいのリビングは水に浮く構造とし、共用空間を漂うことで、住人同士の繋がりを創り出す

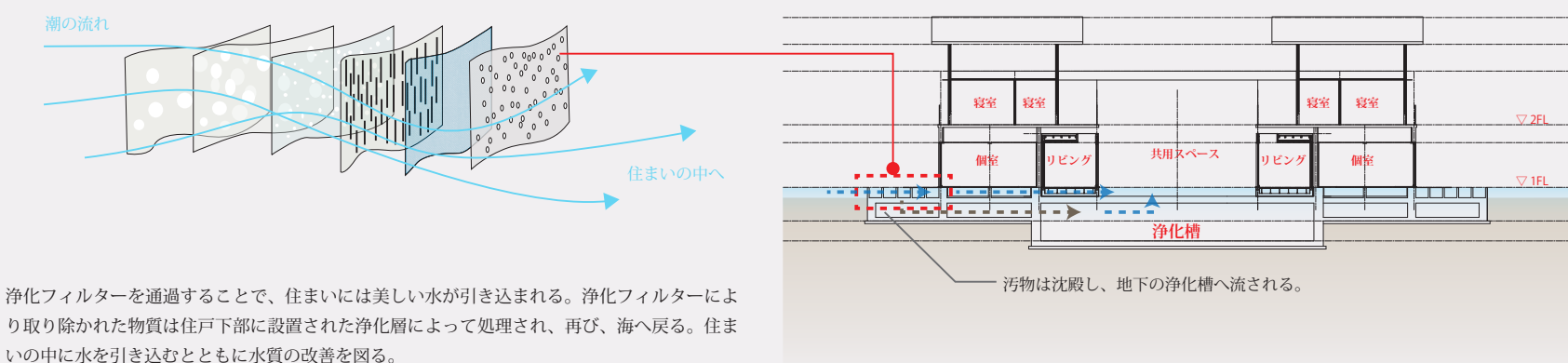
住まいの中で浸水の無いリビングには家族が集う。リビングが住戸とは分離した構造とし、下部に空気層を設けることで浮力により水に浮く構造とする。**リビングは浸水した水により共用空間を漂う。**各々の住戸のリビングは水の振る舞いのもとに移動し、隣接するリビングと共用スペースに近づく。**リビング同士が近くづくことで住人感の繋がりが生まれる。**または、近づいた共用スペースに乗り移り、そこで住人同士の繋がりが作り出される。



潮の流れによりリビングは動き出す。潮の満ち引きにより、住戸間の境界は漂うように変化し、いずれ住人同士を繋ぐ接地面となる。

潮の満ち引きを引き込む住まいが環境と人の繋がりを創り出す。

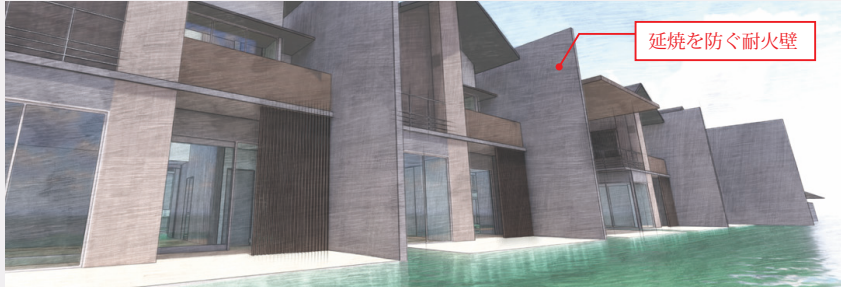
03. 水の侵入口の浄化フィルターが綺麗な水を住まいへ導くとともに、浄化槽が海の水質を改善する



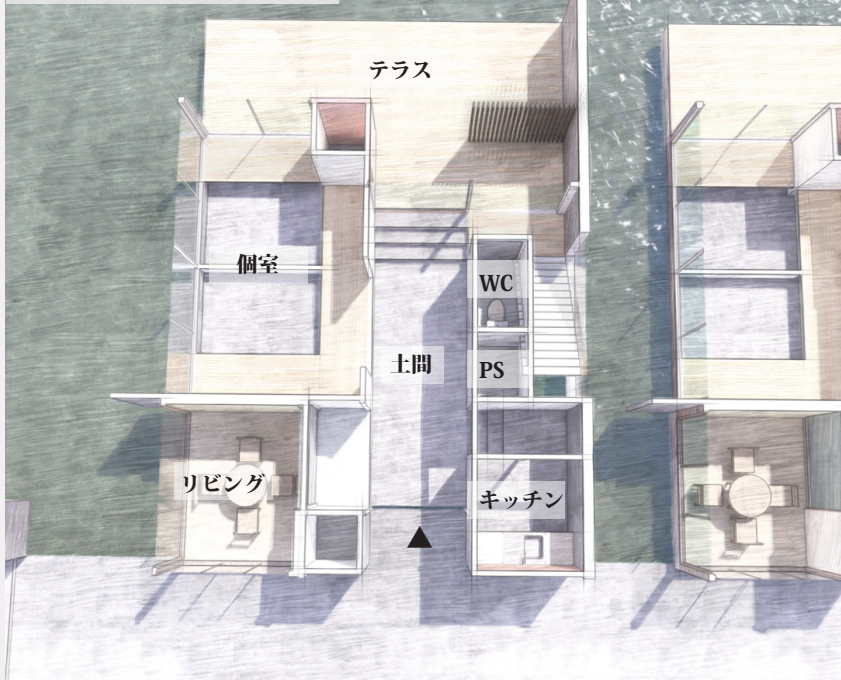
浄化フィルターを通過することで、住まいには美しい水が引き込まれる。浄化フィルターにより取り除かれた物質は住戸下部に設置された浄化層によって処理され、再び、海へ戻る。住まいの中に水を引き込むとともに水質の改善を図る。

04. 火災の延焼を防ぐ耐火壁を住まい間に設置

住まいの構造は1階をRC造、2階を木造とし、1階は火災に強い構造とした。2階は木造とすることで鞆の浦のまち並みに調和した構造とした。住戸の片側にはRC造の耐火壁を2階上部まで立ち上げ、火災の延焼を防ぐ計画とした。**火災に強い集合住宅とすることで、災害時の拠点となるよう計画する。**避難した周囲の住民は、共用スペース上に避難を行う。

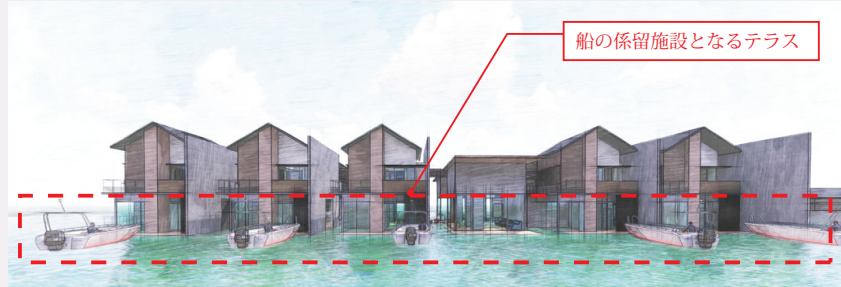


住戸1階平面バース

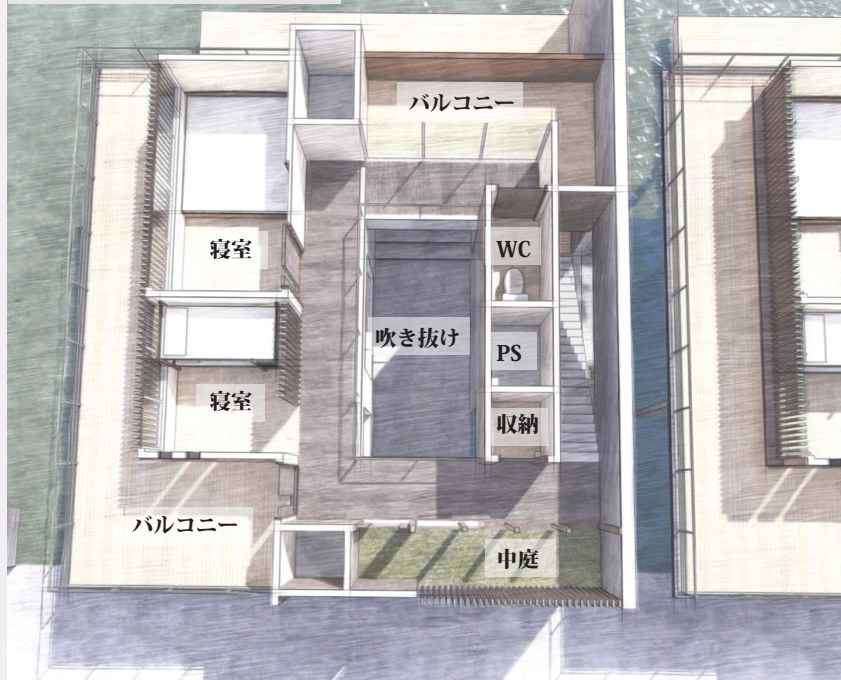


05. 漁船に係留する、また、漁具を置くテラスの設置

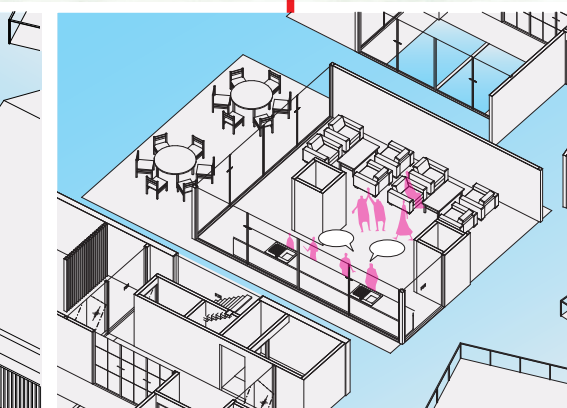
住まいに海に面するテラスを設置する。テラスは漁船の係留施設となり、住人が自分の漁船を停泊させる。また、漁具を置くスペースともなり、鞆の浦の沖合に停泊する漁船・港内に放置されている漁具を減少させることで、潮待ちの港の景観を改善する。テラスは海辺で家族が過ごすスペースとしても活用でき、**まちと人、水を繋げる場となる。**



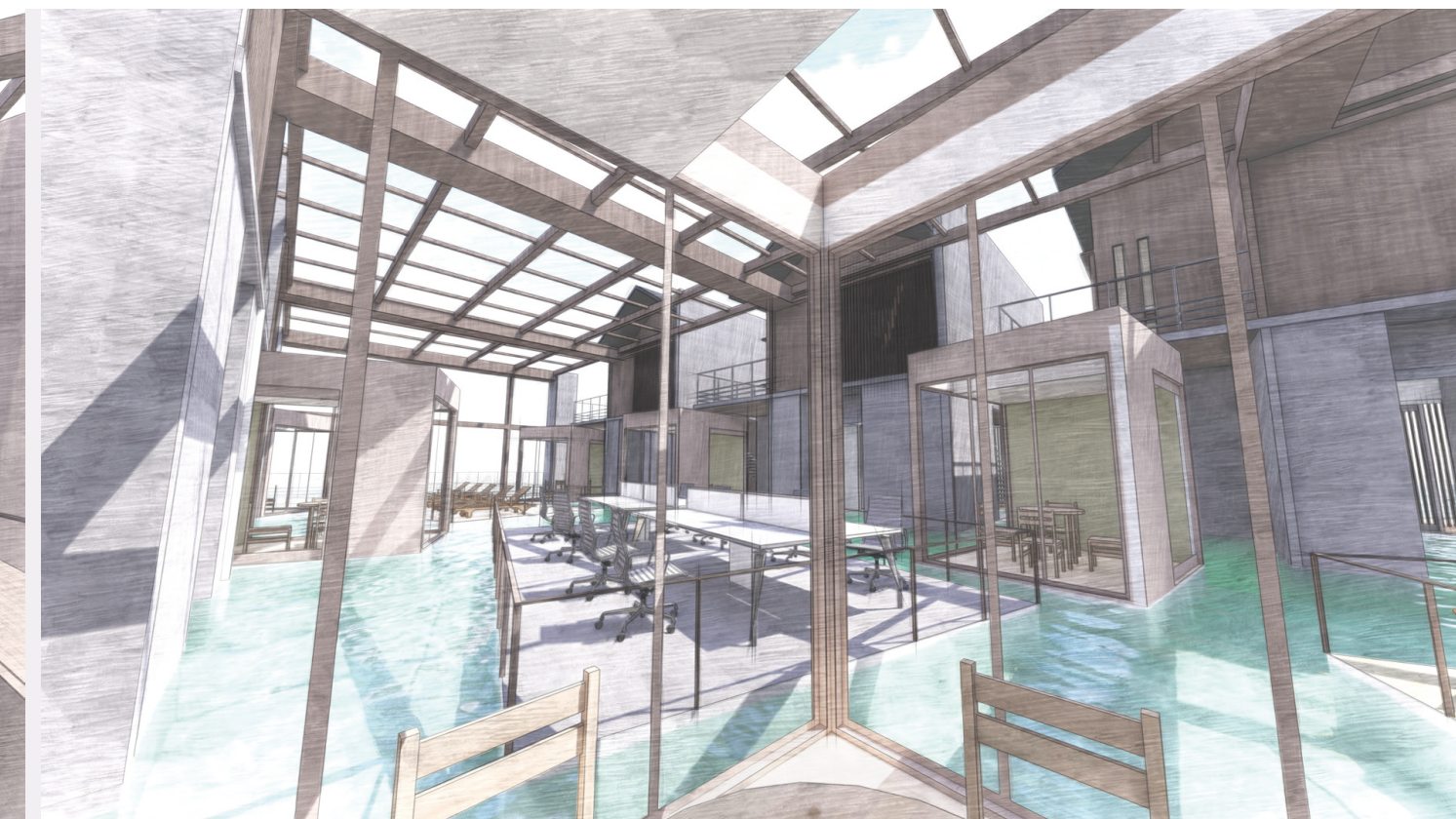
住戸2階平面バース



全体平面図 S=1:200



共用スペースとして共用キッチン・ダイニングを計画する。水辺を臨む開放的な空間で、キッチンの利用を促す。共用キッチンは水の浸水がなく、水に浮かばない構造とした。近隣の住民にも開放した空間とする。**災害時は避難した人々とともに食事を提供する場ともなる。**



掃き出しの開口を開けることで、共用スペースや他の住戸のリビングを行き来し、繋がりを創り出す。